史料紹介

豊前国時枝領百姓騒動史料 (2)

豊田寛三

本号においては、時枝領上・下元重村、未村の三か村において、天保七年（一八三六）九月におこった騒動に関する史料を収録した。

史料としては「日用記録」「御礼ニ付口上書扣」「年〻諸願書類扣」の三種である。なお、日用記録については、天保七年四月――五月にかけて神社祭事に関する紛争記録もあわせ掲載した。この騒動については『大分の歴史』第七巻〝ゆらぐ封建社会〟において概略を述べている。ご参照頂きたい。

三、天保七年上・下元重、末三か村騒動関係史料

1

（表紙）
「（朱書）十三」

天保七歳

凶作天下之飢饉

日用記録

上下元重騒働(マヽ)発ル

丙申 正月吉日　田口正誼　」

（前略）

（四月廿六日）

同日

一、上元重吉右衛門罷出候事、右村祭り座役差縺一件為伺ひ申出候、

（中略）

廿七日晴

一、下元重伊右衛門罷出候、右村祭り座役一件及内談候、

（五月）

二日晴

一、上元重吉右衛門呼出し候、江戸出奔喜代助と申者、右村出之由御沙汰有之候訳申達ス、

（中略）

十五日晴

一、上元重村役人右村宮方一件ニ付最寄小前共中壱人引連罷出候、神座之義ニ付村中連印之願書差出ス、

十六日晴

一、御陣屋へ出勤、上下元重宮方神座差縺一件御窺申上候事、

十七日晴

一　元重村宮公事一件ニ付双方呼出候、我等取扱ひ之趣及示談候事、両村之居合是迄之通ニは迚も双方納得難出来ニ付、此節我等之以取扱双方一社宛ニ引分ケ、上元重村江若八幡宮、下元重村江山王宮引受、双方壱村限りニいたし、神田者勿論神

具等二ツニ引分ケ候筈ニ申渡候事、尤一村ツヽヲ呼出し候、

十八日雨

一、上下元重村ゟ宮方取扱之処、村中一統承知奉畏候段届申出候、仍而両村共ニ請書差出候様下案相渡ス、諸願ひ扣へ記有り、

十九日晴

一、元重上下此節ゟ宮方双方一社ツヽ、引受相成候ニ付、神田差分ニ付、為見届信右衛門差遣ス、両村役人中立会神具等も引分ケ之筈也、

（中略）

廿三日晴

一、元重上下庄屋能出候事、皆作届申出候、尚又宮方両村共ニ一社宛引受ニ相成候、右請書双方共ニ村中連印ニ而差出ス、願書写ニ扣有、

（中略）

廿五日晴

一、御陣屋へ出勤、組内皆作之御届申上ル、

但元重宮方双方一社ツヽ、引受ニ相成候一件も御届申上ル、

（中略）

七日（七月）大風雨

一、今日者終日烈敷大雨ニ而風茂相立殊之外出水致ス、

（中略）

九日曇天

一、御陳屋（マヽ、以下同）へ出勤、余り打続久ゝ雨天ニ付田畠共不作相成候而虫気茂相募、先ゝ無心元候間御内意相窺候事、

十日晴

一、於当方庄屋中出会、夏中只今迄降続キ畠方粟作ハ皆無ニ相成、此上田方何分ニ可有之哉、先ゝ無心元仍而盆会踊其外初盆会先江之取遣等相見合、可然段ニ談候事有之候事、

（中略）

十三日晴

一、当年之春以来降続キ、畑方粟作等皆無同様ニ而田方も虫気相見へ、先ゝ無心元年柄ニ付、統而御近領も盆会等質素之趣、仍而先日庄屋中出会もいたし、初盆先江之音信等相見合、盆踊等も相止メ候様ニ村ゝ申触候規定ニ相成候、就右村内段ゝ初盆先も有之候得共、備物等遣し候事相見合候、尤本家并格別之懇意先江者極内ゝニ而左之通届候事、

一、斎米壱升
麦粉壱升
（例之素麺替り　正覚寺江上ル
せんまい　一
梨子　廿五
ぼふどふ

但、是ハ例歳之定式ニ而当年之規定ニ不拘

一、燈籠　壱ツ
赤飯　一重　本家江
せんまい　一包

但、お鶴、おかつ姉妹初盆ニ付

一（赤飯　一重
　（せんまい　一包　明蓮院

一（赤飯　一重
　（せんまい　一包　久兵衛方へ

〆村内段〻初盆先有之候得共、当年柄一統之規定ニ付相見合せ候事

一、（赤飯　一重
　（せんまい　一包　下元重庄屋伊右衛門方へ

但、先頃同人妻相果初盆ニ付

（中略）

十九日晴

一、当年柄降続キニ而畑方粟抔皆無同様、田方も見付不宜、兎角騒〻敷天気合ニ而先〻無心元、就右内談申入度義共段〻有之、下元重伊右衛門・上時枝次左衛門同道ニ而秣江罷越候、深水江示談之上柏屋之様罷越道平江も色〻及談合置候事、

七月廿日晴

一、上元重吉右衛門罷出候、下作方一件内窺ひ申出ル、

（中略）

廿二日雨

一、御陳屋へ出勤、堀氏懸御目先日伊右衛門次左衛門召連秣江罷越候趣、御内咄し申上置、

（中略）

廿八日晴

一、今日ゟ御領中村〻水帳御差引合相済候趣ニ而御算入ニ相成候由、当組ゟ時枝上下信左衛門ニ元重久平、西組ゟ西秣真右衛門・又左衛門都合六人、御陳屋へ罷出候様御沙汰ニ而各相詰候事、

（中略）

（八月）十二日雨

一、久方ニ而昨夜降雨有之、菜喬麦（〻〻）ニ宜〳〵、

（中略）

十九日晴

一、時枝上下村役人罷出候、当年柄田畑共ニ殊之外違作ニ相成小前一統段〻歎出之趣申出候、

（中略）

同日

一、深水氏ゟ手帋ニ而、当年柄田畑共ニ毛上七月末方ゟ次第ニ見付悪敷相成、晩田者出穂不致坪間〻有之、谷辺者格別悪敷よし色〻歎出ニ付、いつれ一統出会評議之上何角相談いたし度段問合参候間、当組迚も同様之義ニ付、来廿二日下時枝へ出会致度段返答申遣ス、

（中略）

（八月）廿二日（晴）同

一、下時枝寛平方ニ而御領中出会、当年柄田方も殊之外違作ニ相成、畑方粟・綿等者不残皆無同様ニ而案外之年柄ニ相成候而、御年貢取立方無覚束ニ付、何角為評義出会いたし、御陳屋江も出勤之上相窺候事、

（中略）

（廿五日）
同日
一、元重上下・末村庄屋罷出候、早稲下見合附帳面差出、
廿六日晴
一、御陣屋へ出勤、深水一同罷出村〻早稲下見合附帳入御披見、明後廿八日より廻村下見致候筈ニ申上ル、
八月廿七日晴
一、明日より御領中村〻為下見廻村ニ付、当組〻罷出候下元重伊右衛門・上時枝次左衛門両人江しらせ文通致ス、
廿八日晴
一、御領中村〻当年柄凶作ニ付、早稲方下見のため今日より木部村始罷越候、当組下元重伊右衛門・上時枝次左衛門召連候、
秣組〻柏屋病気ニ付西秣真右衛門・黒村伊十郎罷出候、西秣江一宿、
廿九日同
一、今日西秣ニ而昼休ミ夕方迄ニ三秣見仕舞候、黒村迄罷越伊十郎方江一宿、
同夜
一、中村下リ東組江廻文出ス
九月朔日晴
一、今朝黒村始山袋江仕舞、中村昼休末村少〻相残り下元重泊り、
二日晴
一、上下元重・末村残り分見分いたし又〻下元重昼休ミ、昼後山下見分猿渡泊り、
三日同
一　山下残り之見分、猿渡ニ引移り当村昼休ミ、時枝上下見分いたし下時枝泊り、

四日晴

一　先頃ゟ御取調相成候御領中村〻水帳反別畝高過不足之儀ニ付被仰渡之儀有之候間、村役人一同引連罷出候様、一昨夜御差帋ニ付其段触出し、今日一統御陣屋へ出勤、村〻水帳過不足之御書付村〻共御渡ニ相成候、其内於村方も得与取調可申出段被仰付候、

四日

一、下時枝ニおいて一統出会、当年柄田方畑方凶作一件ニ付何角及評義候、先日より下見廻村之銘〻又〻逗留、

五日晴

一、荒木村田方為見分罷越候、右村者根付ゟ外村ゟハ例歳後れ候ニ付、いまた舛付も難相成、仍而一通野色見分致ス、良左衛門方ニ而昼休ミ、村〻庄屋組頭中あら木迄跡より罷越、小前一統早稲苅取難相成段申出候由ニ付申出候、引取懸御役所江立寄堀御氏へ内窺いたし内会所ニ而及評儀候事、

六日風天

一、元重上下村役人小前七八人ツヽ引連罷出候、早稲苅取一件兎哉角歎出候間、利解之上早〻苅取候様申渡ス、

七日晴

一、御役所江出勤、村〻昨日迄も兎哉角歎筋申出候所、色〻利解之上漸苅取ニ相掛候段御届申上ル、

同日

一、御差紙ニ而御米百六拾石来十二日早米納被仰付候之間、左之通割合触出ス、

覚

一、御米百六拾石也　九月十二日早米納

内

一、同拾四石四斗　上時枝　一、同拾弐石也　下時枝
一、同拾石四斗　さる渡　一、同拾四石四斗　山下
一、同拾弐石八斗　下元重　一、同拾弐石也　上元重
一、同拾三石六斗　末村　一、同七石弐斗　中村
一、同五石六斗　黒村　一、同五石六斗　山袋
一、同拾壱石弐斗　上秣　一、同弐拾四石也　西秣
一、同拾石四斗　下秣　一、同六石四斗　木部

〆

右様被仰付候得共、十二日迄与申而者何分難出来、村々共願出其段申達十五日内ニ延引被仰付候事、

同日晴

一、下元重伊右衛門罷出候事、

（中略）

十日少々雨

一、御陣屋へ出勤、早米納明後十二日被仰付候得共、昨夕より雨天ニ付村々共難出来段願出候間、近日ニ御願申上ル之所、御積立船都合も有之、格別之延日者難相叶、来ル十五日ニ御延引被仰付候間、此段組内へ再触渡し秣江も知せ書状遣ス、

同日

一、あら木良左衛門罷出候、右村者いつれ検見ニ御願申上候趣内相談申出候事、

十一日晴

一、荒木村田方検見願ひ一件ニ付村役人一統罷出候之間、評義之上昼後一同先勤いたし相窺ひ候之事、

十二日同
一、あら木良左衛門佐助罷出候、右村小前願方之義ニ付段々内談申出候、
十三日晴
一、御陣屋へ出勤、荒木良左衛門一同罷出右村検見願一件再窺致候、
（中略）
十五日晴
一、早米納ニ付一統布津部江出張、例之通御祝儀申上ル、当年田方も言語之違作ニ而村々共小前共鎌留メいたし、段々歎方申出候趣、仍而評議之上願方も有之候間、一統集評可致旨申合せ、布津部ゟ皆々当方之様罷越及示談逗留いたス、
十六日晴
一、昨日より一統当方へ相滞評義之上御陣屋へ出勤、当年柄未曽有之変作村々小前段々歎方之趣申込、御用捨引御願ひ申上候事、
十七日雨
一、山下村小前共一統ニ而、組頭惣左衛門是迄段々我侭不筋之義有之趣訴訟申出、取調方押而願出候間、今日最寄ニ而小前方十人呼出し願出之趣一通聞約候事、
九月十八日晴
一、御領中一統下時枝官平宅ニ而出会、当年柄村々共言語之凶作ニ付、御用捨引願方其外段々願方ニ付皆々御陣屋へ罷出、色々願引致し夜ニ入引取、
十九日晴
一、猿渡・山下・荒木三ケ村者今日ゟ田方苅取ニ相掛候趣以源市御届申上候事、

廿日晴

一、時枝上下村役人一同罷出候、

御陣屋之様罷出、時枝上下別而畑広ニ付、内々難渋ニ而田方苅取いまた不致歎出候趣申上、両庄屋一同御呼出ニ而御利解有之候得共、治定不致以堀御氏再三相歎候処、極内々ニ而時枝両村へ又々五石丈御用捨被仰付候ニ付、右を以小前へ鎌入為致候筈申談候て引取、

廿一日晴

一、早朝時枝上下ヨリ以組頭今日ゟ田方苅取ニ相掛候趣届申出候、

同日

一、深水氏立寄候事、何角相談有御陣屋之様出勤被致候、

（中略）

廿二日曇天

一、源市出勤為致時枝上下苅上ニ相掛候段御届申上ル、

同日

一、元重上下・末村三ケ村御年貢方ニ付、今昼後ヨリ風与騒動差発り、小前共壱人不残ニ相集り、向之宮ニ而評義いたし願方ニ付御陣屋迄も押掛ケ罷出候趣相聞候間、直ニ村役人呼出し取押へ申附、御陣屋へかけ付此段御届申上御相談ニ及ひ候内、追々時之声を立銘々竹槍を以当村之方江罷越、明蓮院向ひ川原江相集居、我等引取を相待、色々願方役所江申込御聞済相成候得者其通、若御取上無之ニおいてハ御陣屋迄押懸ケ罷越候段申立、大変之義ニ付、夜ニ入堀御氏江も極内々ニ而当方迄忍ひニ御越有之、上下時枝庄屋信左衛門其外皆々かけ付、色々取なだめ、我等一同再三御役所江も罷越、一大事ニ付、いつれにか為引取候方肝要之義ニ付、押而御示談申上候処、御領中ニ而五百石之御用捨引ニ五百石之米拝借、都合千石之

御考合御付被下候ニ付、右ヲ以段々及利解、尤御用捨引五百石之内右三ケ村ハ三拾石取除キ割渡、余分ニ遣候筈ニ趣意ヲ付、いつれか此侭引取候様種々取なだめ候処、漸ニ一統承知いたし夜明頃ニ村方江引取相成、格別之乱法ニ不相成相静り、御陣屋表者不及申皆々安心いたし候之事、

廿三日晴

一　前断之趣西組谷三ケ村聞付、一同稲積宮へ相集り、夫ゟ当組之様子ヲ聞合せ秣深水方江押懸候趣、今朝深水も御陣屋江罷越、我等ニも出勤候様御沙汰ニ付、色々出勤之上御示談申上、深水者為取静メ取急キ引取、夜ニ入秣ヨリ飛脚ニ而漸取押へ、谷三ケ村其外茂引取候趣知らせ申参り安心致、

廿四日同

一、下時枝官平方ニ而御領中出会、此度之一条尚又御用捨引割取等評義之事、

九月廿五日晴

一、此方ニ而組中庄屋中出会、此度被仰付候御用捨五百石拝借五百石之割合致ス、昨日下時枝ニ而両組割合者取分置、

廿六日同

一、深水一同出勤、当組ゟ次左衛門・信左衛門召連罷出、此節之元重上下・末村三村騒動一件之御歎申上候事、布津部之様罷越夜ニ入引取、

廿七日同夜ニ入雨

一、御領中一統秣深水宅ニ而出会、此節三ケ村其外西組谷三ケ村騒動一件ニ付種々評義事有之候へハ夜ニ入引取、

（中略）

廿八日晴

一、此度被仰付候御用捨米拝借割替へ一件ニ付、昨日深水宅ニ而出会評義致候、又々今日当方ニ而組出会、当組へ割合致ス

廿九日同
一、御陣屋へ出勤、深水一同罷出此度騒動之一条御領中庄屋中ゟも段々御歎申上候段申上ル、
九月晦日
一、上元重吉右衛門呼出し、此度三村騒動一件極内々聞糺度義も有之呼出ス、
（中略）
（十月）
三日晴
一、源市出勤収納割帳相調候、元重上下下見帳も相調候、
同日
一、山下弥左衛門・栄左衛門両人へ此間預り置候右村取立帳丑寅卯辰四年分相渡ス、
四日雨
一、末村ゟ下見帳差出候間、源市出勤ニ而相調候事、
（中略）
（六）
同日
一、下元重伊右衛門罷出候、麦種願出候事、
十月七日雨
一、石類他方江出候儀、其外食物ニ相成候品卿たりとも他ニ出し申間敷之御差帋、再応被仰付候間直ニ觸出、
同日
一、堀御氏ゟ御内書ニ付出勤、山下村故障一件御内咄有之候事、
八日曇天

一、組内村〻当年柄困窮之もの麦種食込ニ相成、此節麦蒔付ニ甚差閊候趣、尤先頃より評義も有之、種麦拝借之義願出之事、

九日晴

一、御陣屋へ出勤、組内麦種拝借御願ひ申上ル、是迄御領中ゟ麦種相願候年柄者無之候得共、当年者春之麦遅作、其上夏中之降続キニ而秋作田畠共ニ凶作ニ而、食物とぼしき処ゟ麦種迄も食込ニ相成候もの共村〻ニ而過半有之、依而両組共ニ願出種麦御貸付ニ相成候事、

十日同

西組

大麦十三石
小麦十三石
内半方麦安被仰付候
〆廿六石也

東組

大麦十五石
小麦十五石
内半方麦安被仰付候
〆三十石也

当組内訳左之通り

内

上時枝村

大麦弐石四斗
小麦弐石四斗

（大麦壱石八斗　下時枝村
小麦壱石八斗）
（大麦壱石弐斗　あら木村
小麦壱石弐斗）
（大麦壱石八斗　申（マヽ）渡村
小麦壱石八斗）
（大麦弐石弐斗　山下村
小麦弐石弐斗）
（大麦壱石六斗　下元重村
小麦壱石六年）
（大麦壱石六斗　上元重村
小麦壱石六斗）
（大麦弐石四斗　末村
小麦弐石四斗）

〆

申十月十日請取

（中略）

十三日晴

一、先日御下案被下候三村之御歎書一統庄屋中之調印相済候間、今日出勤之上差出ス、

（中略）

十月廿三日雨

一、御差紙被仰付此度当年柄之為御救、小麦三拾石御領中へ被下置候間、両組へ割合配当致候様ニ被仰出候間、直ニ秣へ飛脚差上両組割合之義及相談候事、

（中略）

廿五日晴

一、御蔵所江出勤、昨日深水一同申合せ触出候、両組庄屋中も不残出勤、其外ニ御用も有之、村々小麦被下之割合等いたし、両組去銀拝借返納方、先当年者利納斗ニ被仰付候様仕度段御願ひ申上ル、

廿六日晴

一、御領中一統御蔵所江出勤、村々番共代出銀等之返納高御帳面ニ調印致候、且又当年納糟米多分ニ有之、村〻共上納願出、先日御領中ニ而八石丈割合相納候様被仰付候得共、村〻共多分之事ニ而当年柄振替出来かたく、今日評義之上、押而御願申上、御領中ニ而三拾石丈相納候様被仰付候間、割合置候、

同日

一、此度御救ニ被仰付之小麦三拾石今日割合致ス、村々共明日御蔵所ニ而請取之筈也、證文直ニ上納、

十月廿六日晴

一、御貯石当年五拾石丈元之内上納之筈候所、当年柄ニ付迚も元米上納者難出来、仍而延納ニ御願申上御貸付分之利納斗ニ相成候事、尤此上訳合も有之、当年可相納五拾石元米之内十歩壱、五石丈相納候様被仰付、都合利分共ニ拾壱石御領中へ割合上納之筈ニ致ス、

同日

一、夕方御差帋被仰付、去月廿二日上下元重・末村右三ケ村騒立之義ニ付、御糺之筋有之、三村役人中始一ケ村ニ而三人ツ、惣代として召連罷出候様被仰付候間、直ニ此旨三村へ申達ス、

但、外ニ上時次左衛門・猿渡信左衛門・西秣真右衛門召連一同ニ罷出候様、深水連名之御差帋ニ付直ニ秣江も文通致ス、

廿七日晴

一、昨夕御差紙ニ付、上下元重・末村三ケ村役人始、一村ニ付百姓惣代として小前三人ツ、引連罷出候処、去月廿二日三村騒動之御取調有之、段御〻吟味之上村役人始甚心得違之義一通之事ニ無之、依而両村庄屋伊右衛門・吉右衛門始惣代として罷出候三人之者共入牢被仰付候事、

但、末村者惣代之内実右衛門・栄四郎両人江手鎖被仰付、庄屋始其外江ハ御咎メ無之候、

同日

一、上元重村兼帯猿渡信左衛門江被仰付候事、

同日

一、下元重村兼帯時枝次左衛門江被仰付候事、

十月廿八日晴

一、末村肝煎仁平御呼出ニ相成、御吟味有之候事、同人先頃騒動之砌中村へ通達いたし候由、右之段御取調有之候、

同日

一、御差図ニ付、昼後上元重肝煎庄助当方江呼出し、騒動砌同人ゟ末村へ通達いたし趣、尚又末村仁平申出方も有之、両人一同当方江呼出し相糺候事、

廿九日晴

一、御蔵所江出動、昨日末村・上元重両村肝煎共相糺候一件御届申上ル、

十一月朔日晴

一、収納御差引御差帋被仰付候間、直ニ觸出ス、

一、下元重村組頭惣代罷出候事、

二日晴

一、御陣屋へ出勤、末村肝煎仁平・上元重肝煎庄助右両人村役人一同御呼出ニ而、先頃騒動之一件村〻江通達致候訳、御取調有之、上元重庄助入牢被仰付候事、

同日

一、先日より入牢ニ相成候元重上下庄屋始其外共ニ右場所ゟ御呼出ニ相成御再調有之候事、

同日

一、今日秣深水宅ニ而大差引出会之処、別断之御呼出ニ付出勤致候処、御取調殊之外間取、夜ニ入引取候様相成候間、秣江者不参致候、信左衛門・勝左衛門も右御調ニ付出勤候間同様不参、

三日晴

一、深水氏・下秣道平・山袋喜四郎当方へ相見へ候、昨日秣ニ而評義有之、元重上下之御歎キとして両組ゟ出勤之約束ニ付、示談之上同道ニ而出勤致御蔵所迄罷越候事、当組ゟ信左衛門・次左衛門出勤、

四日晴

一、於当方ニ組出会三村騒動ニ付而歎方一件色々及談事あり、

五日曇天

一、上時枝次左衛門罷出候、右村はいつれ十日迄之皆済無覚束延日納ニ而も少々相願度段申出候、

六日晴

一、御蔵所江出勤、昨日組出会ニ而及評議候三村騒動之砌、当組其五ケ村静謐ニ有之候段、村々共以書付申出候様ニ被仰出候間、銘々口上書請取差出ス、

七日晴

一、上元重庄助忰良助・下元重実右衛門忰長平御呼出相成御取調有之事、

同日

一、上元重伊平御取調之上入牢被仰付候事、尚又同村惣助手錠被仰付候、

（中略）

九日曇天

一、下元重組頭惣代罷出候、御咎人歎申出候

（中略）

（十一）
同日

一、御陳屋へ出勤、上元重惣助・良助御呼出相成御取調有之候、下元重実右衛門義は今日出牢被仰付候、

十二日曇天

一、御陣屋へ出勤、下元重慎四郎御呼出、御調之上入牢ニ相成候、先日より入牢被仰付有之候、左之人数出牢ニ相成ル、

上元重村　弥助
　　儀助
　　仁平
〃
下元重村　重助

徳四郎

（中略）

十四日朝

一、御陳屋へ出勤、末村実右衛門・栄四郎・吉右衛門三人手錠封印御改メ有之、吉右衛門義は此訳合も有之候義ニ付、段々趣意合御歎申上候処、同人義者再応御呼出相成、手錠之処御免村預ケニ被仰付候事、

（中略）

十六日雨

一、下元重休市・勇助・其助・武平呼出ニ而御取調有之候事、先日入牢被仰付候右村慎四郎出牢ニ而其助入牢被仰付候事、

同日

一、上元重吉右衛門出牢ニ相成、手錠ニ而村預ケニ被仰付候事、

同村仁平手錠御免ニ相成候事、

十七日晴

一、上元重類蔵・庄吉罷出候、吉右衛門出牢相成候礼也、

十八日晴

一、下元重瀧右衛門・茂平・新兵衛罷出候、御咎人之趣申出候、

（中略）

同日（廿八日）

一、正覚寺和尚御入来、三村之御歎方一件御内談ニ付、

廿九日曇天

一、御陳屋へ出勤、上下元重御呼出、手錠之者封印御改メ、尚又御取調も有之候、下元重義平手錠御免ニ相成候、

同日（晦）（中略）

一、下元重阿弥陀寺老僧被相見へ、上下元重御咎メ之者共之歎被申出候、

（中略）

七日晴（十二月）

一、下元重組頭惣代罷出候、御咎人歎一件申出ル

（中略）

八日

一、御陳屋へ出勤、元重上下御咎人歎方之義申上ル、其外窺事致候、

（中略）

同日（廿二）

一、先頃ゟ取立被仰付候元重上下・末村三ケ村拾石ツ、之米明廿三日布津部御蔵所納ニ被仰付候間、此段三村へ申達ス

（後略）

2

（表紙）

「 天保七歳

御糺ニ付口上書扣

申十一月日　　田口組 」

御糺ニ付口上書

一、去ル月廿二日上下元重・末村騒立猿渡大庄屋許へ罷出候趣ニ而、当村ヲ罷通り候ニ付、村中ニ而出交候儀決而不相成候段堅申付、私義者直に御陣屋ニ御注進申上、引取之上相糺候処故障無御座候、此段御糺ニ付申上候、以上、

申十一月　日　　山下村庄屋　良三郎

御糺ニ付口上書

一、上下元重・末村騒立、当村川原江相詰候砌、当村之儀者早速組頭・肝煎呼出し村中ニ而壱人茂右場所へ立交り候儀決而不相成候段、堅申付置、私義者早速御陣屋ニ御注進申上、引取之上取糺候処、当村小前之内右場所へ立交候者壱人も無御座候、右之段御糺ニ付有躰奉申上候、以上、

申十一月　日　　申渡村庄屋　信左衛門

御糺ニ付口上書

一、末村・上下元重村騒立候由承り、当村之儀者早速村役人山ノ口并肝煎等呼出シ、万一出張候者御座候ハヽ可差押与見廻り申付置、私儀者其侭御陣屋江御注進申上、引取之上村方取調候処罷出候者者壱人も無御座候、右之段御糺ニ付申上候、以上、

申十一月　日　　時枝村庄屋　治左衛門

御糺ニ付口上書

一、当村之儀者末村、上下元重村騒立候由承り、私儀者早速御陣屋江罷出御伺申上、引取、右ニ順シ騒立不申様、組頭并肝煎

呼出シ取押方被下申付置、直ニ大庄屋許江能越シ申候、其後聊故障筋無御座御紛ニ付有躰申上候、以上、

申十一月　日

下時枝村庄屋
寛平

御紛ニ付口上書

一、当村之儀者三ケ村騒立候趣、翌廿三日九ツ過頭会所庄や上時枝治左衛門ゟ手紙ニ而知らせ申参承知仕候、於村中ニ聊故障無御座候、御調ニ付有躰申上候、以上、

申十一月　日

荒木村庄屋
良左衛門

右之通村〻申出候処、少も相違無御座候、三村騒立猿渡村川原江相詰候ニ付、早速銘〻御注進申上、夫より直ニ私方江庄屋中罷越、三村取鎮メ方示談仕、御窺申上候処、格別之御用捨被仰付候ニ付、右ヲ以利解仕候処承知仕、夜半過無別条一統帰村仕申候、以上、

申十一月　日

田口治郎右衛門

時枝

御役所

3

（表紙）

「文政六年
年々諸願書類扣
癸未ノ春ヨリ　　田口正誼」

（前略）

覚

一、大麦拾五石也
一、小麦拾五石也

内

大弐石四斗　上時枝
小弐石四斗

大壱石八斗　下時枝
小壱石八斗

大壱石弐斗　あら木
小壱石弐斗

大壱石八斗　猿渡
小壱石八斗

大弐石弐斗　山下
小弐石弐斗

大壱石六斗
小壱石六斗　下元重

大壱石六斗
小壱石六斗　上元重

大弐石四斗
小弐石四斗　すえ村

右者当年柄ニ付麦種御拝借御願申上候処、書面之通被仰付難有慥ニ奉受取候、然上御返納之義者、来酉之反別麦上納之節、一同ニ取立御上納可仕候、為其連印証文仕差上申候、以上

天保七年申十月　日

村〻庄屋中
連印

田口源市
田口治部右衛門

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

時枝
御役所

奉願候一札之事

去月廿一日上下元重村・末村右三ケ村之もの共当年田畑凶作ニ付困窮仕候ニ付、先頃御憐愍ヲ以、五百石丈御用捨被成下難有仕合ニ奉存候、右御勘考を以御引方ニ而も御年貢上納難仕候ハヽ、無余義御定法之候(マヽ)見正路ニ請可申旨、再応被仰渡奉承知候へ

共、小前共来春迄取続難斗、困窮之余り右三ケ村之もの共前後茂不弁大勢申渡村大庄屋迄罷出、当年柄之義ニ付、御年貢半納ニ被仰付候様、強而相願ひ万一御聞届ニ不相成候ハヽ、直ニ御陣屋迄可罷出旨申募り、大庄屋利解も申聞候へ共聞入不申、就而者下時枝・申渡・山下村庄屋共江取救として立入被仰付、其砌不法之願筋ニ而、御他領江対し徒党ケ間敷願筋ニ付、不相成旨厳敷被仰渡候得共、立入之もの一同段〻奉歎候故、先騒立候義、一旦取鎮メ候様、就而者尚思召茂御座候而、五百石丈ケ御用捨引内弐百五拾石者被下、弐百五拾石者御救貸ニ而、来秋正米返納被仰付、右ニ而漸三ケ村之もの廿二日未明ニ引取鎮り候得共、其後段〻御趣意を奉恐察、重〻恐入候義ニ付、右御救拝借弐百五拾石丈、先此節上納仕、来春ニ至り弥取続キ出来兼候ハヽ、又〻御救拝借可奉願候ニ付、前断之通御許容被成下候様願度、私共一同印形仕差上申候、以上、

天保七申年十月日　　御領中

庄屋中〻連印

田口源市印
深水惣十郎印
田口治郎右衛門印
深水惣五左衛門印

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

時枝
御役所

（中略）

当年田畑共違作ニ付、御領中難渋之者江為御救小麦三拾石今度被下候、両組ニ而申合配当可致候、

但、明後廿五日布津部御蔵所ニ而相渡候事、

一、当時麦払底ニ而難渋之趣相聞候、依而極難之ものへ者麦壱舛ニ付百文ツヽニ而御渡シ相成候間、村役人共ゟ取調可相願候、渡方之義者朝五ツ時ゟ四ツ時迄御産物会所ニ而相渡候、

一、先日再三相触候通、穀類ニ不限食物ニ被用候品者聊たり共他方へ出申間敷旨、相触置候へとも、又差支候義も可有之候ニ付、食物ニ相成候品者相当之直段ヲ以御買上ケ有之候、米有等も当時出来相場より引上ケ御買上ニ相成候ニ付、村役人ゟ取調可相願候、石数可申出候ハヽじかに代銀可相渡候、

一、麦作村〻ニ而皆作ニ相成候ハヽ、右之趣可申出候、未以蒔付不申小前〻不出情農業おこたり候儀ニ付、村役人より急度沙汰可致候、万一手すくな又は病人等有之候ハヽ、其組合ニ而助合不差支様可致候

右之趣御領中不洩様可相觸候、以上、

申　　時枝　御陣屋

十月廿三日

林蔵渡大庄屋許

覚

一、米拾石也　　但御蔵納通

右者去ル九月廿二日村中之者共風与騒立、御用捨御引方之義大勢集り大庄屋方迄相願候ニ付、段〻御理害(マヽ)被仰聞、格別之思召ヲ以御領中へ五百石被下置候砌、上下元重村・末村三ケ村願立候村方ニ付、別段御用捨余計不被仰付候而者難引取之段、強而村役人共申募、無拠大庄屋差略ヲ以三村江拾石ツヽ、余分ニ割合付候儀ニ候へ共、元来者悪意ヲ以願立候ニ付、村中へ割渡候へ共、此節不洩取立、正米拾石郷蔵へ相預り置候様御沙汰之趣奉畏候、依而前書之石数私共立会相改封印仕置候処相違無御座候、依而御請印形差上申候、以上、

申十一月廿九日

百姓代　（マヽ）―印
―印
組　頭　―印

下元重庄屋入牢中
兼帯
上時枝村
治左衛門印

時枝
御役所

大庄屋奥印

但、右之通上下元重・末村三村一ツ御請書差出候事

御米拝借証文之事

一、御米五石也

右者当村方小前中極〻凶作ニ付、御皆済難遣来候間、依之段〻御拝借御歎申上候処、格別之以御慈悲書面之通被仰付、重〻難有仕合奉存候、然ル上ハ返納之義者来ル酉之十月限り無滞急度取立御返納仕可申候、為其御米拝借証文奉差上候処、仍而如件

天保七年

申十二月　日

荒木村惣代
佐　助
同村組頭
元右衛門
同村庄屋
良左衛門
田口治部右衛門

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候以上、

時枝
御役所

銀拝借証文之事

一、銀七百五拾六匁

右者当村方極〻凶作ニ付御皆済難遣来り候ニ付、書面之通拝借御願申上候処、格別之思召ヲ以願之通被仰付難有慥ニ奉請取候、然ル上御返納之義ハ、来ル酉十月限り月壱歩半之加利足元利一同ニ無滞急度御上納仕可申候、為其拝借証文印形仕差上申候、以上、

天保七年
申十二月　日

荒木村百姓
惣代　佐助　印

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

時枝
御役所

右村組頭
元右衛門　印
右村庄屋
良左衛門　印
田口治部右衛門　印

（中略）

覚

一、米拾石也

右者去ル巳年ゟ酉年迄五ケ年中為御救御米拾石宛被下置候筈ニ御聞済被成下置、則当申年分書面之通被下置重畳難有慥ニ奉請取候、為其仍而如件、

天保七年
申十一月日

時枝村惣代
茂　平　印
同村組頭
良右衛門　同
同村庄屋

治左衛門　同

田口源市　印

田口治部右衛門　同

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

時枝

御役所

覚

一、大麦三石弐斗　御領中へ

小麦三石弐斗　御救被下切

内

村〻小訳　何村

―　―

右者極難之もの共為御救書面之大小麦被下置難有慥ニ奉請取候、為其連印証文仕奉差上候、以上、

天保七年

申十二月　日

御領中

庄屋中連印

田口源市　印

深水惣十郎　同

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

田口治部右衛門　同
深水惣左衛門　同

時枝
御役所

但、此外ニ例歳村〻極〻難渋之者共飢食願出候分ハ、例之通家内人数書出壱人前小麦弐升五合之当ニ而被下置、此分ハ両組共ニ村〻限りニ証文差出別ニ被下置候事、

銀拝借証文之事

一、銀壱貫目也

右者当村方極〻凶作ニ付御皆済難出来候故、書面之通拝借御願申上候処、格別之思召ヲ以願之通相叶、難有慥ニ拝借仕候処相違無御座候、然ル上御返納之儀者来ル酉之十月限り月壱歩半之加利足、元利一同ニ無滞急度御返上納仕可申候、為其拝借証文奉指上候、以上、

天保七年申十二月

荒木村惣代
佐　助
同村組頭
元右衛門
同村庄屋
良左衛門

前書之通相違無御候ニ付奥印仕差上申候、以上、

田口治部右衛門

時枝
御役所

奉願上拝借証文之事

一、銀壱貫目也

右者当村方極〻違作ニ付御皆済難出来候ニ付、書面之通御願申上候処、格別之思召を以願之通被仰付難有慥ニ拝借仕候処相違無御座候、然ル上御返納之儀者来酉十月限り月壱歩半之加利足、元り一同急度御返納可仕候、為其印形仕証文仍而如件、

天保七年申十二月

山下村惣代　寿平
同村組頭　弥左衛門
同断　惣左衛門
同村庄屋　良平

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

田口　源市
田口治部右衛門

時枝
御役所

（中略）

御歎申上候口上之覚

一、去申秋作田畑共案外之不熟ニ付五百石御用捨御拝借被仰付候処、晩田取分不熟仕御請難申上段々御歎申上候処、苅上之儀者旧損ニ茂相成候事故、一日茂早ク苅上可仕収納之上極々御年貢仕立出来不仕候節者御含茂御座候故、早々苅上ケ可仕与之御沙汰、乍併極々苅上ケ出来兼候村方者、御定法之御倹見（マヽ）御願申上候様御利解ニ付、一統奉畏候、然ル処上下元重村・末村三村、申（マヽ）渡大庄屋許へ願出候者、五百石之御用捨を返候而茂、御年貢仕立難出来奉存候間、御用捨押而御願申上度申出候処、為御取押五百石御用捨御拝借被仰付、小前一統承知奉畏候而帰村仕候、其後御取調逸々申申（マヽ）訳茂無御座奉恐入候、依之庄屋并小前之内頭立候者御咎メ被仰付、当人者ハ不及申上、村中一同後悔奉恐入候、然ル処下元重村庄屋伊右衛門儀六十余ニ罷成申候、只今迄正直ニ相勤候処ハ御上様江茂御承知之御儀ニ御座候、上元重村庄屋吉左衛門義も在躰之人柄ニ御座候処、此度之一条者誠ニ以不慮之出来ニ而申訳も無御座重畳奉恐入候、然ル処御領中一統去秋凶作ニ付、小前一同及飢難渋仕候、御上様ゟ茂拝借飢喰等毎々御手当等被下置、只今迄者飢人等も無御座、取続候得共穀類高直ニ付麦作出来立迄者、程久敷儀ニ御座候間、無難ニ取続候儀無覚束、右様之年柄御賢察被成下、格別之御隣愍之御沙汰被仰付候ハヽ、莫太之御慈悲ト親類ハ不及申御領中一同難有奉存候、依之御歎書連印ヲ以奉指上候、以上、

天保八年申正月　日

西秣村庄屋
真左衛門　印
下秣村庄屋
道　平　印
黒村庄屋
伊十郎　印
山袋村庄屋
為右衛門　印
中村庄屋み習
順　平　印
木部村庄屋み習
仁　平　印
末村庄屋
勝左衛門　印
山下村庄屋
良三郎　印
中渡村庄屋
信左衛門　印
荒木村庄屋

良左衛門　印
下時枝村庄屋
寛　平　印
上時枝村庄屋
次左衛門　印

前書之通一統連印ヲ以御歎申上候、何卒御憐愍之御沙汰願上候、為其奥印仕指上申候、以上、

田口　源市　印
深水惣十郎　印
田口治部右衛門　印
深水惣左衛門　印

時枝
御役所

御尋ニ付申上候書付

豊前国宇佐郡上下元重村・末村右三ケ村、当秋御検見願中抜穂之義ニ而事起り、大勢私方迄罷越候一件御尋御座候、右者当年柄ニ而田畑共悉く違作ニ罷成、一同難渋之趣、別而三ケ村者田方不宜、外並之御用捨引ニ而ハ御請茂申上兼候趣ニ而、強而御願申、上下元重村ニ而者飢渇難渋之余りニ抜穂いたし候風聞ニ付、以之外之義、末村之義ハ先御検見願下、治定之趣ニ者候得共、右三村之庄屋共当月廿二日早朝ニ差紙ニ而、着次第早〻ニ罷出候様申遣候処、同日辰ノ刻頃三ケ村庄屋共罷出候ニ付、上下元重村ニ而ハ女童抔大唐米ニ事寄、抜穂いたし候哉之風説有之、甚不埒之義上躰御聞込ニ相成候而者、第一役分

之者相立不申故、早〻相紛取締方申渡候内、俄ニ同日巳ノ刻頃上下元重村耕地ニおいて抜穂いたし候処、御陳屋見廻之衆ヨリ見咎メヲ受、抜穂者其儘投捨一同逃去候ニ付、定而御陣屋へ被持帰候哉之趣ニ而、いつれ御捕方へ差立候義与奉恐察、二ケ村及混雑、此上者大庄屋宅江歎申立候ヨリ外無之ト心得、上下元重村小前〻申立候趣夕方組頭中来、猶酉刻頃上下元重村小前俄ニ大勢ニ而末村之小前茂相加り、追〻申渡村江向参り候趣ニ付、右三ケ村之庄屋共私方へ居合候間、直ニ立帰らせ、さし押可申旨申聞一同取鎮申候得共、多人数之事ニ而聞入不申趣、其砌御陣屋江茂御届申上候処、申渡村山下村上下時枝村庄屋共取扱ニ被仰付、再〻御理害(マヽ)も御座候得共、当年柄ニ付御年貢半方ニ茂被仰付候ハ、引取可申旨重立強而伊右衛門中募り、旁及混雑候処、別段御趣意茂被仰付、同廿三日未明ニ三ケ村小前共引取申候、右御尋ニ付相違不申上候、以上、

天保七申
九月廿三日

申渡村
大庄屋
田口治部右衛門　印

時枝
御役所

御歎申上候口上之覚

一、去申年秋作田畑共ニ未曽有之凶作ニ付而、御領中村〻共甚困窮仕、御年貢取立方無覚束、既ニ元重上下・末村三村者別而田方不宜処ゟ御検見御願申上候筈ニ而、村役人共同道相成見廻、御差紙ニ而抜穂御差押へニ相成候処、夫ゟ事起り三村小前共多勢申渡村大庄屋許迄相詰、色〻願方等申立候処、為御取鎮格別之御用捨御拝借被仰付、一統奉承知無故障帰村仕候、其後右始末御取調ニ相成候処、心得違之段逸〻申訳茂無御座処ゟ、庄屋始小前之内、頭取躰之者共厳重ニ御咎被仰付、一統後悔仕重畳奉恐入候、先書ニ茂御歎申上候通ゟ竟年柄悪敷所ゟ不慮之出来事ニ而一統歎ケ敷次第ニ奉存候、是迄度〻御歎茂申

上置候儀ニ者御座候得共、不容易儀ニ而是迄御裁許茂不被仰付、御咎之者共長〻入牢中当人者不及申上、村中茂昼夜当人旁甚困窮仕候、此度御上御先祖様御遠忌御相当ニ付、御領中有罪之者或者除帳之者共心底立直り候者者願出、帰村ニ茂可被仰付御慈悲之御沙汰一統奉承知、重畳難有奉存候、就而者元重上下・末村御咎之者共格別之以御慈悲、何卒早〻御裁許被仰付御仁慮之御沙汰茂被下置候ハヽ、当人親類者不及申上御領中一統重畳難有仕合ニ奉存候、為其一統連印御歎書奉差上候、已上、

天保八年酉
五月　日

上時枝村庄屋　治左衛門
下時枝村庄屋　寛　平
荒木村庄屋　良左衛門
猿渡村庄屋　信左衛門
山下村庄屋　良三郎
下元重村兼帯庄屋　治左衛門
上元重村兼帯庄屋　信　左　衛　門

末村庄屋
勝左衛門
中村庄屋
順　平
黒村庄屋
伊十郎
山袋村庄屋
為左衛門
上秣村兼帯庄屋
真右衛門
西秣村庄屋
真右衛門
下秣村庄屋
道　平
木部村庄屋
仁　平

前書之通御歎申出候処相違無御座候、何卒御慈悲之御沙汰被仰付下置候ハヽ、重畳難有奉存候、為其奥印仕差上申候、已上、

田口　源市
深水惣十郎

田口治部右衛門
深水惣五左衛門

時枝
御役所

（中略）

奉願上候口上之事

下元重村
其　助

右之者義去申之秋三村騒動一件ニ付而、是迄入牢御咎メ中ニ御座候処、此節は甚暑相障り候哉、当月十七日ゟ不斗病気差起り食事茂不相用候ニ付、早速ニ親類組合共罷越看病仕候得共、日〻相重り候ニ付、其段大庄屋許迄御届申上候処、一昨廿日御差図ヲ以御医師大格殿御差越被下、容躰御覧之上薬用等被仰付候得共、何分薬給茂相見へ不申、其後次第ニ疲労仕、此儘ニ而今両三日茂差置候ハヽ、自然牢死仕候程茂難斗、親類者不及申上ニ組合一同甚歎ケ敷奉存候、依之恐多義ニ者奉存候得共、牢中ニ而者薬用看病等茂行届兼難堪奉存候ニ付、右之者病中宿預ケニ被仰付被下置候ハ、親類共打寄、成丈療養相加へ見申度、尤快方ニ趣候迚、万一逃去候様之義ハ決而為仕間敷、若右様之義御座候節ハ、親類組合之内いつれを人代ニ御立被下置候迄、任御下知ニ毛頭違背申上間敷候、則御医師之容躰書一同差上申候、何卒格別之以御慈悲願之通被仰付被下置候ハ、御仁慮之程重畳難有奉存候、為其御連印御歎書奉差上候、以上、

下元重村願主
其助親類　宅右衛門

同村　同断　豊　助
同村　組合　実右衛門
同村　同断　小右衛門
同村　同断　政四郎
同村　同断　喜右衛門
同村　同断　嘉右衛門
同村　組頭　茂　平
同村　同断　瀧右衛門
同村兼帯庄屋　次左衛門

田口治部右衛門

前書之通願出申候処相違無御座候ニ付、奥印仕差上申候、以上、

時枝
御役所

奉願上候御歎書之事

下元重村
伊右衛門

右之者義、去申之秋元重上下・末村三村騒動一件ニ付、是迄入牢御咎メ中ニ御座候処、当月十三日頃ゟ気分不相勝候処、此節之強暑相凌兼、其後次第相衰へ、折〻気絶仕、食事等茂不相進候ニ付、親類共昼夜相詰メ介抱仕、薬用為仕候得共、老躰

之義ニ御座候得者、日〻労れ相見へ、三日前ゟ絶食ニ相成、此向差置候ハヽ、迚茂養生難相叶趣、御医師ゟ容躰書被差出候間奉差上候、就右子供始其外親類殊之外相歎申候、甚以恐多義ニ者御座候得共、何卒格別之以御慈悲宿預ケニ被仰付被下置候ハヽ、親類共打寄、成丈療養相加へ、快気為仕度、願之通被仰付被下置候上者、諸事念入毛頭不埒之筋為仕申間敷、且又少〻ニ而茂快気仕候ハヽ、其段早速御届ケ可申上候、為其以連印御歎書奉差上候、以上、

天保八酉
六月　日

下元重村願主
伊右衛門親類　嘉　助
同村　同断　政四郎
同村　組合　周　助
右　同断　伸右衛門
右　同断　友　助
右　同断　慶　助
右　同断　郡　助
同村　組頭　茂　平
同村　同断　瀧右衛門
同村兼帯庄屋　次左衛門

田口治部右衛門

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、已上、

時枝
御役所

奉願上候御願書之事

上元重村

惣左衛門

一、

右之者儀、去申ノ秋元重上下・末村三村騒動一件ニ付而是迄入牢御咎メ中ニ御座候処、兼而病気持病ニ御座候而折〻差起り苦病仕候得共、是迄者格別之義茂無御座罷過候処、此節之強暑相障り、当月廿日夜不斗霍乱ニ而度々吐瀉仕候間、早速ニ薬用為仕、其後親類共相詰メ種々看病仕候得共、持病之癪気相催し、両三日者殊之外容躰悪敷食事ニ茂不相用、此儘四五日も差置候ハヽ、助命茂無覚束、妻子共別而相歎キ誠ニ不便之事共ニ奉存候、則御医師被差出候容躰書奉差上候、甚以恐多義ニ者御座候得共、格別之以御慈悲宿預ケニ被仰付被下置候ハヽ、親類共打寄、成丈看病仕度願之通被仰付被下置候上ハヽ、諸事念入毛頭不埒之義為仕申間敷、且又少しニ而茂快気仕候ハヽ、其段早速御届可申上候、為其以連印御歎書奉差上候、已上、

天保八年酉ノ

六月　日

上元重村願主

惣左衛門親類　儀作

同村　同断　亭吉

同村　同断　和平

同村　組頭　市兵衛

同村　同断　武平

同村　同断　平助

同村　同断　半四郎

同村　組頭　庄吉

同村　組頭　類蔵

前書之通願出申候処、相違無御座候ニ付奥印差上申候、已上、

時枝
御役所

同村兼帯庄屋　信左衛門

田口治部右衛門

渡辺澄夫先生古稀記念事業会編

『九州中世社会の研究』

A五判・五三四頁・頒価五、〇〇〇円（送料共）

本書は渡辺澄夫博士の古稀を記念して知友、門下生十五氏が、主として九州中世の政治・経済・社会に焦点をあてて執筆した最新論文から成るものです。各論文とも従来の九州中世史に新しい一頁を加えたものであり、また九州史からとらえた日本中世史という観点からも本書の持つ意義は極めて大きいものがあります。

申込先　渡辺澄夫先生古稀記念事業会事務局
〒870　大分市大手町三―一―一　大分県総務部総務課県史編さん班内

送金方法　郵便振替（下関一一五一九）にてご送金ください。銀行振込の場合は大分銀行県庁内支店普通預金口座番号一四二八七二（渡辺先生古稀記念会代表秦政博）をご利用ください。

自費出版のため一般書店では取扱いません。当事業会に直接お申し込みください。